

**Citation:** Yang W, Hao Z, Zhang S, Dong W, Wu T, Liu GJ, Liu M. Mailuoning for acute ischaemic stroke. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2009, Issue 2. Art. No.: CD007028. DOI: 10.1002/14651858.CD007028.pub2.

**CRG名:** Stroke

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 2 September 2008

**Clib issue No.;** N/U: 2009 issue 2, New

**背景:** mailuoningは中国で急性虚血性脳卒中の治療に広く使用されている。

**目的:** 急性虚血性脳卒中の患者の治療におけるmailuoningの有効性と安全性を明らかにする。

**検索戦略:** Cochrane Stroke Group Trials Register(2008年1月)、Chinese Stroke Trials Register(2007年12月)、Trials Register of the Cochrane Complementary Medicine Field(2007年12月)、Cochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL)(コクラン・ライブラリ2007年第4号)、MEDLINE(1966年~2007年12月)、EMBASE(1980年~2008年1月)、AMED(1985年~2007年12月)、China Biological Medicine Database(CBM-disc 1979年~2007年12月)、Chinese National Knowledge Infrastructure(1979年~2007年12月)を検索した。臨床試験と研究登録を検索し、関連性のある学会予稿集を含む10誌の中国の雑誌をハンドサーチし、参考文献リストを入念に調べ、さらにmailuoningを製造している製薬企業に問い合わせた。さらなるデータを入手するために試験著者への問い合わせも試みた。

**選択基準:** 急性虚血性脳卒中の患者を対象にmailuoningをプラセボと比較、またはmailuoning単独および他の治療との併用をその他の治療と比較しているランダム化比較試験。

**データ収集と分析:** 2名のレビューアが独自に、含める試験を選択し、試験の質を評価し、データを抽出した。

**主な結果:** 1,280例の参加者を対象としていた15件の試験を含めた。含まれた試験には、最低3カ月の追跡終了時に死亡数や要介護患者数について報告されていなかった。有害事象を報告していた6件の試験のうち2件の試験で5件のイベントが発生していた。14件の試験は質が不良であると評価された。これらの試験を統合して解析したところ、mailuoningにより神経脱落症候が改善した患者数に有意な増加がみられた(リスク比(RR))0.30、95%信頼区間(CI)0.22~0.42)。方法論の質が良好であると評価された1件のプラセボ比較試験では、3カ月の追跡終了時に神経脱落症候の改善(平均差(MD)0.69、95%CI-3.42~4.80)も日常生活動作の改善も認められなかった。生活の質は1件の試験で評価されており、有意な改善はなかった。

**レビューアの結論:** 方法論の質が十分な試験から、脳卒中後の回復を促すためにmailuoningのルーチン使用を支持する説得力のあるエビデンスは認められなかった。mailuoningの有効性を確認するために質の高い大規模なランダム化比較試験が必要である。

(監訳 江川 賢一)

翻訳公開日: 09年9月15日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。